

エッセイ (登場人物には深くお世話します。)
現4回生 一部M2 名取暢

① イエロー二世号の巻

「たごたうるさいヤッガイのモッダ。だいたいい色存んてものは黄色ガハハに決まってる。あの背が高くメガネをかけた男は、たごたうるさいのダ。だいたいい背が高いから体に合う自転車がないのダ。それもある色でなければ絶対ダメだんかと言ってるのは気に入らん。それもある色は存んた。またね之色だ。隣がぶつくと言ってるヤッは オレンジ色存んがにイヤッて。センスがないんだまな一。黄色ガハハに決まってるヤンけ。」それにしては今考えると悪夢じゃ!

② ジャムが無いの巻

「ヤッしい先輩だ。雨の中食料を買った行、てくいる存んて。ッてねえよな一。新歓ランで雨が降る存んて。こん年橋の下で、寒いよな一。お! パンを買、てきてくれたのか。ありがたい事だよ。パンをもらいました、次にジャムをパンにつけましー? あのジャムはどこにあるんじや! 回りのヤッは、実際にうまいように食いやがる、中でも あいつはジャムをたっぷりパンにつけヤッて、存んて 名前のヤッだ! 先輩だと彼代とは 今後 絶対食事は一緒にしないようにしよう。」それにしては 同じ黄色の自転車の先輩代とは、まいった。

③ 腰枕はっらいよの巻

「うるさいいびきをかきやっもいるものだ。今度はいびきには
ざしりの伴奏つきとまたもんだ。一級品だよこれは。予備合宿の
2日目、こっちも疲れなんだよ。あれ？なにをするんじや。こいつ
は？あのなー。いいかげんにしろよ。とて同じ一年生とけ思え
んぬ。たまらんよ！身長が180cmもあるやつが、重いんだよなー
。なんとかしてくれよ。」これにしても実に重たかった。襦の上の
彼の頭は。

④ 真夏のまじめな一クラブ員の巻

「荷造りさしなけいばな。おかあちゃん合宿の荷造りましに東
京に行ってくるよ。一年生はっらいぬとまたもんだ。先輩、いば
どう話せばいいんですかー。今日じゃ終わらせんぬ。他の人も来
てくれればいいのにねー。明日やりますが。おはようございます
。今日は荷造り終らせましょうね。やっ、と終わりましたね。それじ
ゃ帰りますよ……あれ——！血のふん水じゃ、ふん水じゃ！」
これにしても荷造りさえ手づだいにさなけいば夏合宿はいけたの
に。5ハリも足をゆうろんで。

⑤ 大月の駅はドル箱の巻

「たいたいにして。あついがいけぬえんだ。8時に下宿も出たな
んでどうゆう神経しとるんじや。八王寺でありて、大月でありて
バカもほとほとにしたいよ。隣でぶつくす言、てるやつがかわい
い彼女たちともかく、さしがまたあの背高のっほのはざしり屋さ

んときたもんだからとうし、うもな。目的地はち野郎をんだ
ぜ。のん気に釜めしをんが食いやが、ま、ムーンをあの大阪商
人のセイヤと。だいたいち野郎に二人でいったらとうし、うも
なんだぜ。宿宿所の別荘は下宿を8時に出た大バカ野郎の大阪商
人の別荘をんだから。あれ、おまえ手に何をもち、ま、んだ
よ。金なんがビラビラさせやが、ま、手に一、拾った、1万4
千円。ま、このホームに落ちていた、冗談もほとほとにせい、
たなからボクもちとはこの事ですな。大阪商人にはだま、ま
いようぜ、ま、これにしても、あの一万四千円は新宿の夜の町
にパッと消えましたな。

⑥ あの麻雀ノートはどこにいったの、しょうねの巻
「あれ、また振り込んだぜ。銀行の振り込み屋じ、わえんだぜ
。ま、これにしてもまたハコったぜ、先輩も先輩だよな。オレから
録一色もあたるな、てせの中血も深もな、せ。今日のまけを麻雀
ノートに、けま、うわ、や、たせ、ベイビー、スタート、500点
譲、何と言、ま、オレが一番よ、ま、これにしてもよくやりました
な、麻雀を。新入生が入る前にノートか、か、か、ちま、たの
は決、して僕のしわざではないのだ、

⑦ 肥だめの彼と使い古しのパンツが好き、彼の巻
「あ、一輪車のオバハンが恐、か、たせ、おまえがぶつ、か、た後
で、オレが横を通りぬけた瞬間、殺すぞ、と言われたもな、な。
ま、これにしても、おまえが中華ナベを使って料理している姿、実に

板についてるよ。ミスター中華マンだぞ。それにしても中華マン
君よ、あのオバハンの一輪車の上は肥の入った。たるが乗せてあ
ったんだぜ。中華マン危村一髪よ。あそこでも、肥だめへジャ
ボンだった。今ごろテントの外だぜ君は。とこもともくさく
さ。春合宿の鹿見島の一夜もミスター中華マンは肥とともに一人
眠とくらあー。ほんとはまが、たぜ一輪車の肥だるに落ちなくて
。それにしてもよく似合、さいるせ中華ナベと君は、隣りは何
の話をしてるんだい。なにー。パンツがどうした！使い古しのパ
ンツが非常にはきいい。はだの感触が非常にいいと。横浜の
住人は時々へん事と言ひ初めるなー。パンツはだ小だ。で新し
い方が、いいに決、さいる。なになに、いさ少し使い古したちよ
うとまたなくな。たパンツが最高、だから新しいパンツにはきか
えるのは気が進まないだ。まあ好き存ようにしてくださ。横
浜の妹がなくぜ。」それにしてもミスター中華マンが肥だめに着
ちていたら班の中で彼のあっぱいは非常にせわっさいただろうに
。横浜の住人はいまでも使い古しをはいてるのか？があちゅん
がなくぜ！

⑧ すくいきれない 方向音痴

「オレンジ色の自転車にまたがり頭にはちまき、ぼろり決まっ
てるぜ。ところがこのおっちゃん地図は無用の長物なんだよ。地
図よりも目で聞くのがとくいとまえる。かあいいお女を見つけ
は、聞いている。くせなのがおれとそうしてるのかさ。ぱりわが

らねー。なにしてる地図はだめ！道なき道を走り、川を横切りはち
まき姿でさっそうと登場。ところが意外にもこのおっちゃん一日
文学青年になったりする事もあるのだ。島崎藤村の小説も片手に
道なき道をすすきを振りわけ集合地にやっとう登場のおっちゃん
である。」それにしてもこのおっちゃんの通った道なき道を、ま
っくり同じようにたどって集合地に来た人がいたのは、おどろき！

⑨ 行へ不明の彼の巻

「すみませく一人行へ不明ですと中華マンが叫ぶ。ユースのおや
じび、くりぎょうてん。峠の背高ムッポとおっちゃんはこの寒
中、あと一人峠に上って来るはずの仲間を待たしている。中華マン
とオレは村に降りて助けを求め約束に付いている。中華マンが
行へ不明なとおおげさに言ったものだから、ユースのおやじ真
赤で顔して自動車の用意。峠から一人上ってこない仲間を見に自
転車でおりて見にいけば、それですごいものを人情として今のぼ
て来た坂をおりるのは、抵抗のあるもので、だれもおりようと
しない。4人の相談の結果、これは文明の力、自動車を使う事
になった。そこでオレと中華マンが宿地のユースまで峠をくだ
りて自動車でひきかえる事になったのだが、結果はなんと峠に
登ってこない埼玉の住人は峠のふもとで眠っていたのだそうだ
。まいったぜベイビー。とは言うものの無理のない話で、その日
走って来たコース、山越、谷越へ一万里のコース。おまけに夜行
で新宿から松本まで来たとくりゃハネ満ぐらいいじゃすまないぜ。

よくまあ、ここまで走。て来たものよ。腹はへるし、パンクはするし、まいったたぬきのはらまきちゃんよ。さぬにしてもあと1つの峠越えリヤユースと言う所であせったせいでよく考えてみりゃ、ノリクラの10月のグリーンと冷えてんだ夕方に寒い道端で眠りゃ、天国とさか北極行きたせよ」さぬにしても、夜行の電車の中で一番よく眠、ていたのは、何をかくそう埼玉の住人でしたな。

⑩ 泣いて泣いて泣きぬいた合宿の巻

「さびしいもんだせよ一人去、ていくのはよ。あの時ほど青空が憎らしく思、た時はなかつたせよぬがれる時によー、てぬーらの顔を見るのが恐しが、たせよむりゃり、おしくいのニコニコ顔をしてよー、つらかつたせよ一人反対方向に谷をくだりなせら、今すぐにも、雨が降、てくぬとぬが、たもんだせ。たけどよく考えてみりゃ、4年間合宿に出たのは、2回半だけだせ。今ねえじやぬえぬ、がなしくなるせよ2回半しか合宿を経験してぬえ、オレにはよー、合宿がとん存もんで、とん存合宿がいののがよくぬがぬぬーけどよ、さぬだけは、語ぬよりも言えるせよ合宿に出ぬえ、て事は、さびしいもんだせ。」という事が、3回半さびしさを味わ、たオレが、みん存に言える唯一の事ですな。

「背高ん、ホのはざり屋さん、大阪商人さん、あ、さん、ミスター中華マン、横浜、埼玉の住人さん、あるM2の方、めちくち書いてごめんなさい」